

パネルディスカッション

条約湿地を守るために何が必要か

- ① 中池見湿地に今後期待されること
- ② 条約湿地を守るための市民と関係者の役割

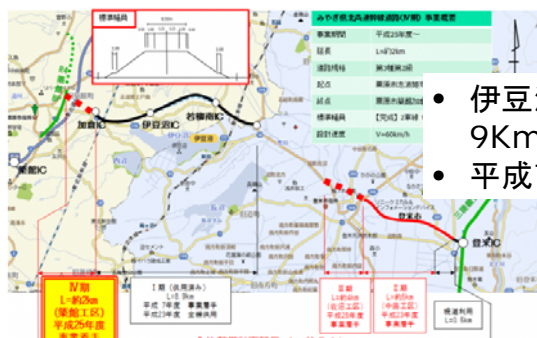
ラムサール条約湿地 伊豆沼・内沼 みやぎ県北高速幹線道路の事例

- 宮城県栗原町・登米市
- 1985年ラムサール条約登録(国内2番目)
- 491ha(伊豆沼369ha、内沼122ha)
- 国指定鳥獣特別保護区
- 県自然環境保全地域



宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターウェブサイトより

みやぎ県北高速道路全体概要図



- 伊豆沼から4Kmの地点で長さ9Kmの大規模道路(県事業)
- 平成7年着手、平成23年供用

宮城県ウェブサイトより

設計段階からの環境配慮の検討(みやぎ県北道)

日本自然保護協会
THE NATURAL CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

平成3～6年

- ・環境影響調査を独自に行う

平成7～10年（工事前4年）

- ・環境懇親会・検討会（7回）で工事設計の共有や
環境保全計画書を作成

平成11～23年（工事中13年）

- ・環境対策委員会（8回）で経過やモニタリング調査の報告

平成24～25年（供用後）

- ・環境対策委員会（2回）でモニタリング調査の報告、
環境対策の成果、総括と今後の取り組み
- ・平成25年目的達成としてモニタリング調査終了、
委員会閉会

18年間で17回環境についての委員会を実施

日本自然保護協会
THE NATURAL CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

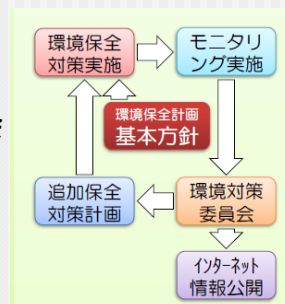
第10回みやぎ県北高速幹線道路 環境対策委員会

～環境に配慮した道路は伊豆沼・内沼から発信する～

平成25年2月18日
宮城県

■ 情報公開

- 委員会メンバーは専門家、地元自治会
市民団体
- 委員会形式であっても、傍聴可能
- 資料はウェブサイトで公開



第10回環境対策委員会資料より抜粋

特徴

- 設計段階からの環境配慮の検討の場
- 順応的管理・工事の実施
- 市民との情報交流の体制
- 取り組みをモデルとして発信